

受験生とご両親、それに電気自動車や、自動運転に興味のある
すべての人に読んで欲しい清水浩のブログ

第1回

今回からブログを始めます。おそらく、週1回で更新することができるかもしれませんね。今回は、モビリティ大学の理念や、目的、目標について述べるものです。

これは、文部科学省に開学の時に提出したものとは異なり、大学として正式なものでもないんです。大学名も電動モビリティシステム専門職大学と長くて誰も覚えられないので、通常はモビリティ大学と呼んでいただいています。

学長としての私の思いを述べることにします。
では始めます。1回目だけは硬い文章になります。

電動モビリティシステム専門職大学(モビリティ大学)

設立の理念、目的、目標についての学長の考え

学長 清水浩

人類のあらゆる営みは、長生きのためであると考えている。それぞれの人々が、何故、努力を続けているかを考えると、結局は長生きという当たり前のことに気が付いた。長生きの3条件は食糧、医療及び過酷な労働からの解放である。一方で、リスクの回避もある。自動車は、過酷な労働からの解放の点で大きく普及した。一方で、リスクとして環境、エネルギー、事故、渋滞の問題も引き起こした。これらの抜本的な解決のために、電気自動車と自動運転がある。モビリティ大学設立の目的は、そのための基本的でかつ専門的な教育と研究を行い、職業としてこれらの問題解決に当たることができる人材を輩出することである。

目標は、この産業で第一線で活躍し、経営者にまで上り詰める人材の輩出で、さらに遠い目標は人類すべてが自動車の恩恵に預かることである。

そのために40人の入学定員に対して23名の専任教員と20名の講師及び3名の助手が在籍し、内11名が自動車製造会社及び有力部品会社、6名が電池産業、5名がモーター、インバーター関係、2名が自動車のデザイナー、2名のIT関連で長い経験した専門家である。

私は、かつて内燃機関自動車を凌ぐ、性能を持つエリーカ(Eliica)を開発し、それが現在の電気自動車の大量普及への道を開いた。また、リチウムイオン電池の発明者の1人の中島孝之教授、本田プレリウドの後輪を走行状態に合わせて自動的に切ることができる4WSの発想から発明を行うとともに商品化に至るまでを指揮し、その

後自動運転に転じた古川修教授、及び大学で教授だった5名を含む教授陣が教育、研究の指導にあたる。

設備には自動車コースは勿論のこと、世界の教育機関では類を見ないリチウムイオン電池の原材料から、完成させた電池の試験に至るまでの設備、自動車関連会社では標準になっている3次元CADのCATIA V5を備えている。

教育内容で他で見られないことは、教室学んだことを実験、実習で身に付けること、及び1年生の時から研究室に所属し、絶え間なく創造力を養うことの双方がカリキュラムに含まれることである。実習の中には16週間のインターンシップも含まれ、学生が望めば国外の優良企業で経験を積むことができる。

電気自動車、自動運転に特化した大学は世界で初めてである。



Elica の写真